

令和6年4月  
一橋大学

令和6年度一橋大学一般選抜（後期日程）第2次試験

出題の意図等 【外国語（英語）】

## I

長文読解問題。問題文は、ロボットや AI といった人間の技術によって生みだされた「知的」存在の権利問題にかんして、動物の権利や自然の権利をめぐる理論・実践を参照しながら斬新なパースペクティブを提示する研究書からの抜粋で、ロボットの法的地位と権利にかんする現代の論争から語り起こし、ロボット、アンドロイド／ヒューマノイド、AI の定義も含めた「機械問題」を議論する文章である。その文章にもとづき、文章全体の主題および理路を正確に把握する力、文の構造を理解し前後の文脈をふまえて文意を解釈する力、類似する事例を適切に腑分けする力、単語を並べ替えて正確な英文を作る力、熟語成句や比喩的な表現について適切な意味解釈や空欄補充を行う力、などを問う。

設問 1 の和訳問題は、やや複雑な **that** 以下の構文および挿入句内の **whether and to what extent** 節を正確に把握し、**so-called**、**in light of** などの成句の意味も間違いなく訳文に取り込めるかを問う。

設問 2 では、**Sophia** というロボットの「市民権」認定をめぐる生じた賛否両論についての記述を正確に把握したうえで的確に日本語で説明できるかを問う。

設問 3 では、「人間ならざるものの権利」を法的に承認するというグローバルなトレンドについて、この段落の内容を正確に把握したうえで具体例を適切に盛りこみつつ説明する力を問う。

設問 4 の和訳問題は、**fail to do** の用法および **fully cover the range of** の意味や、**might** のニュアンスを的確に日本語の文章に反映する力を問う。

設問 5 の和訳問題は、「前者」「後者」の対応を正確に捉えたうえで、「弱い AI」と「強い AI」の対比関係が明確になるように的確な訳語を選択して日本語に翻訳する能力を問う。

設問 6 では、「**Alan Winfield** の定義」にかんして使われている **according to their capabilities and form** という表現を正確に理解し、適切な日本語の単語に置き換える能力を問う。

設問 7 では、アンドロイドとヒューマノイドが対比的に定義されている箇所を同定し、正確

な日本語で表現する能力を問う。

設問 8 では、類似する例が多くまぎらわしいなかで、正確にアンドロイドの具体例を抽出する能力を問う。

設問 9 は、アルファベット順に置かれた 10 個の英単語を並べ替えて空欄を補充することによって正しい英文を作る能力を問うもので、並べ替えた結果は “it for reasons related to improved functioning in social environments”、したがって正解は「3 番目 : reasons 6 番目 : improved」である。

設問 10 は、アルファベット順に置かれた 10 個の英単語を並べ替えて空欄を補充することによって正しい英文を作る能力を問うもので、並べ替えた結果は “the extent to which an entity sufficiently imitates human reasoning” あるいは “the extent to which an entity imitates human reasoning sufficiently” であるが、いずれにしても正解は「3 番目 : to 6 番目 : entity」である。

設問 11 は、前置詞を用いた成句の知識を問う問題で、正解は「(a) For (b) of (c) In (d) under」である。

## II

3 つの英語の質問から 1 つを選択し、100～140 語の英語で答えることを求める設問である。正しい文法と語法の理解にもとづき、正確かつ多様な語彙を用いて叙述する力 (language)、選んだ質問の要点を正確に把握したうえで能動的に考えて的確な応答を発信する力 (content)、適切な形式をもって論理的に文章を構成する力 (organization) を測る。